



喜多流大島能楽堂

KIRYU OSHIMA

能  
唐  
船  
大島政允

第265回  
**11.15.**  
12:30開演

第265回  
**大島能楽堂定期公演**

主催・喜多流能の会

鑑賞券

一般券 6,000円  
十座席指定料 2,000円

学生券 2,000円  
十座席指定料 2,000円

招待券  
十座席指定料 2,000円

狂言 延命袋  
茂山 あきら



# 唐船

## 主な出演者紹介

大島政允



能楽師 シテ方喜多流職分  
国総合認定重要無形文化財  
1942年生れ、福山出身  
能大島家4代目 福山市在住

大島輝久



能楽師 シテ方喜多流職分  
国総合認定重要無形文化財  
1976年生れ、福山出身  
能大島家5代目 東京都在住

福王和幸



能楽師 ワキ方福王流  
国総合認定重要無形文化財  
1973年生れ、西宮出身  
東京都在住

竹市学



能楽師 笛方藤田流職分  
国総合認定重要無形文化財  
1972年生れ、愛知県在住

飯田清一



能楽師 小鼓方幸流職分  
国総合指定重要無形文化財  
1960年生れ、福岡県在住

亀井広忠



能楽師 大鼓方葛野流家元  
国総合指定重要無形文化財  
1974年生れ、東京都在住

大川典良



能楽師 太鼓方金春流  
1973年生れ、千葉県在住

茂山あきら



能楽師 狂言方大藏流  
国総合認定重要無形文化財  
1952年生れ、京都府在住

茂山茂



能楽師 狂言方大藏流  
国総合認定重要無形文化財  
1975年生れ、京都府在住

松本薫



能楽師 狂言方大藏流  
国総合認定重要無形文化財  
1951年生れ、京都府在住

## 2021年定期公演予定

第266回 4月17日(土)

能「弱法師」 大島衣恵  
能「綾鼓」 松井彬

第267回 6月20日(日)

能「俊成忠度」 大島政允  
能「海人」 大島輝久

第268回 9月19日(日)

能「雲雀山」 大島衣恵  
能「是界白頭」 長島茂

第269回 11月21日(日)

能「龍田」 金子敬一郎  
能「項羽」 大島輝久

## 喜多流大島能楽堂

広島県福山市光南町2-2-2  
TEL.084-923-2633  
FAX.084-923-2633  
osimano@orange.ocn.ne.jp  
www.noh-oshima.com



後援

広島県教育委員会  
福山市  
福山文化連盟

-----福山駅-----



福山駅より徒歩15分 バス停『商工中金前』



お得な鑑賞券 年間共通四枚綴 ¥20,000  
年4回公演のチケットを一括でお求めになると¥4,000お得です。  
複数でのご利用にもお使いいただけます。

# 令和二年 第四回(通算二六五回) 大島能楽堂定期公演

十一月十五日(日)十二時半始

喜多流大島能楽堂

## 曲目解説

舞囃子 烏頭 うとう

旅の僧が、陸奥の外の浜に向かう途中、越中の立山で修行します。火山の地獄のような光景を見て下山すると、老人が現れ「去年の春亡くなった獵師の妻子に蓑笠を手向けるよう伝えてほしい」と頼み、証拠に衣の片袖を渡します。

舞囃子とは、一曲の見所の部分を、面装束を付けず、ともに供養をすると、獵師の亡靈が現れて生前の殺生を悔います。杖を使ってウトウと鳥を狩る有様を再現し、地獄で苦しむ鬼気迫る場面を演じます。ウトウを狩り、地獄で苦しむ鬼気迫る場面を演じます。

舞囃子 烏頭

大島 輝久

大鼓 龜井 広忠

笛 竹市 学

舞囃子 烏頭 うとう

解説 大島 衣恵

延命袋 えんめいぶくろ

狂言 狂言

延命袋

シテ(主人) 茂山あきら

アド(太郎冠者) 松本 薫

アド(女房) 茂山 茂

後見 増田 浩紀

口うるさい女房に嫌気がさした夫が、太郎冠者を遣わして、里帰り中の妻に離縁状を届けます。怒った妻は「自分で返事をする」と冠者に告げ、帰宅すると「暇のしるしが欲しい」と頼みます。「何でも持つていけ」と夫が言うと、妻は持参した大きな袋を取り出します。

九州箱崎の何某は、以前に唐土の船と争い、祖慶官人という者を奪い取つて、牛馬の野飼いをさせています。

十三年後、祖慶官人の息子達が、唐土から船で父を迎えて来ます。

祖慶が、日本でもうけた子供達を連れ、野飼いから帰ってきます。故国のことなど語らいながら戻ると、「息子達が迎えに来た」と知らされます。

父は夢のよくな再会を喜び、船に乗ろうとするが、日本某が、自分たちも連れて行くよう頼みます。しかし何の子が、自分の所有だと黙つて許しません。父はどうやらの國の子も選べず、思い余つて崖から身を投げようとして、四人の子に取り

すがられて泣き崩れます。

同情した主人は、日本の子も連れて行くのを許します。皆で船に乗ると、父は喜びの舞を舞い、とともに故郷に船出するのでした。

子方が四人も登場し、作り物も大掛りなため、めったに上演されない曲です。船に

六人乗り込み、舳先の狭い所で「樂」を

舞うのも見所です。

唐船 とうせん

九州箱崎の何某は、以前に唐土の船と争い、祖慶官人

という者を奪い取つて、牛馬の野飼いをさせています。

十三年後、祖慶官人の息子達が、唐土から船で父を

迎えて来ます。

祖慶が、日本でもうけた子供達を連れ、野飼いから

帰ってきます。故国のことなど語らいながら戻ると、「息子達が迎えに来た」と知らされます。

父は夢のよくな再会を喜び、船に乗ろうとするが、日本某が、自分の所有だと黙つて許しません。父はどう

やらの國の子も選べず、思い余つて崖から身を投げようとして、四人の子に取り

すがられて泣き崩れ

ます。

同情した主人は、日本の子も連れて行くのを許します。皆で船に

乗ると、父は喜びの舞を舞い、とともに故郷に

船出するのでした。

子方が四人も登場し、作り物も大掛りな

ため、めったに上演されない曲です。船に

六人乗り込み、舳先の狭い所で「樂」を

舞うのも見所です。

付祝言

休憩三十分

能 唐 船

ワキ(箱崎某) 福王 和幸

大鼓 龜井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫

大鼓 亀井 広忠

小鼓 飯田 清一

太鼓 大川 典良

笛 竹市 学

間(船頭) 茂山 茂

間(太刀持) 松本 薫